

## 平成22年度実践的研究助成対象研究一覧

代表研究者		研究課題	助成額 (単位：万円) ( )内累計	助成年度
1	岩間伸之 (大阪市立大学大学院生活科学研究科准教授・他計7名)	高齢者虐待の「予防」のための指標及びガイドラインの作成に関する研究 〈新規〉	120	H22
2	小野寺敦志 (国際医療福祉大学大学院准教授・他計6名)	BPSDの心理的要因と社会的要因に焦点化した介護職への認知症ケア研修に関する実践的研究 〈新規〉	108	H22
3	小松啓 (聖隷クリストファー大学大学院教授・他計2名)	ホームヘルパーによる援助業務の有効性の検証に関する研究 〈新規〉	121	H22
4	津止正敏 (立命館大学産業社会学部教授・他計3名)	男性介護者のケア・コミュニティ構築と包括的家族介護者支援に関する実践的研究 〈新規〉	120	H22
5	原祥子 (島根大学医学部看護学科教授・他計3名)	介護老人福祉施設における認知症ケア指針の開発と認知症ケア質向上モデルの構築に関する実証的研究 〈新規〉	120	H22
6	山本崇記 (立命館大学衣笠総合研究機構ポスドクフェロー・他計8名)	高齢化する社会的マイノリティ集住地域における福祉の担い手と社会的資源の効果的活用に関するシステム開発 〈新規〉	136	H22
7	小木曾加奈子 (岐阜医療科学大学准教授・他計5名)	認知症ケアにおけるケア実践者のケア充実感と職務満足度の関係について—ICFの視点に基づく「認知症ケア内容尺度」の開発— 〈継続〉	114 (214)	H22・21
8	上杉礼美 (関西学院大学人間福祉学部准教授・他計3名)	華僑高齢者のニーズ・アセスメント：横浜中華街とその近隣地域の高齢者福祉・介護サービスの在り方と街づくりの創造に関する研究 〈継続〉	110 (204)	H22・21
9	中間浩一 (よみうりランド慶友病院リハビリテーション室室長・他計4名)	中等度～重度認知症高齢者における行動障害別認知リハビリテーションの有効性についての研究 〈継続〉	104 (222)	H22・21
10	長野真弓 (京都文教大学特任准教授・他計6名)	運動・社会疫学研究の成果に基づく認知症予防プログラムの実践と評価 〈継続〉	112 (232)	H22・21
11	西垣千春 (神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授・他計5名)	高齢者の生活困窮の原因分析に基づく予防対策の開発に関する研究 〈継続〉	106 (222)	H22・21
12	原田晃樹 (立教大学コミュニティ福祉学部准教授・他計7名)	高齢社会において社会的企業が果たす新たな地域支え合いの可能性とその制度的・社会的基盤条件に関する研究 〈継続〉	115 (245)	H22・21

13	福山和女 (ルーテル学院大学大学院教授・研究科長・他計3名)	認知症高齢者を介護する家族の役割変化を通じた、地域における 家族支援策のあり方に関する研究 〈継続〉	106 (230)	H22・21
14	松繁卓哉 (国立保健医療科学院福祉サービス部研究員・他計3名)	地域包括ケアにおける在宅入院制度構築の可能性に関する実証研究 〈継続〉	108 (227)	H22・21
	合計	14 件	1,600	

(役職は助成当時のもの、敬称略)